

戒能録

かいのう・ろく

福山誠之館校長(第16代)



経 歴

生: 明治32年(1899年)5月30日、香川県高松市築地町生まれ

没: 昭和36年(1961年)2月8日、享年63歳

在 任 期 間

昭和24年(1949年)4月30日～昭和31年(1956年)3月31日
(在任6年11ヶ月)

関 係 略 歴

大正6年(1917年)3月13日	18歳	香川県立高松中学校卒業
大正7年(1918年)4月7日	19歳	広島高等師範学校理科第一部入学
大正11年(1922年)7月3日	23歳	広島高等師範学校理科第一部卒業
大正11年(1922年)7月8日	23歳	大分県師範学校教諭
大正12年(1923年)3月20日	24歳	(兼任)大分県師範学校舎監
大正13年(1924年)3月26日	25歳	広島県に出向
大正13年(1925年)4月1日	25歳	広島県立広島第二中学校教諭

昭和2年(1927年)4月20日～ 昭和4年(1929年)4月22日	28～ 30歳	(兼任)広島県立広島第二中学校舎監
昭和3年(1928年)11月16日	29歳	大禮記念章
昭和9年(1934年)9月6日～ 昭和13年(1938年)5月18日	35～ 39歳	(兼任)広島県立広島第二中学校舎監
昭和13年(1938年)5月18日	39歳	広島県立福山誠之館中学校教諭
昭和13年(1938年)10月15日	39歳	正六位
昭和18年(1943年)3月31日	44歳	広島県立三次高等女学校校長兼教諭
昭和19年(1944年)4月12日	45歳	勲六等瑞宝章
昭和23年(1948年)5月3日	49歳	広島県三次西高等学校事務取扱
昭和23年(1948年)9月15日	49歳	広島県尾道東高等学校校長
昭和24年(1949年)4月30日～ 昭和31年(1956年)3月31日	50～ 57歳	広島県福山東高等学校校長
昭和31年(1956年)4月1日～ 昭和34年(1959年)3月31日	57～ 60歳	広島県尾道北高等学校校長
昭和35年(1960年)6月～ 昭和36年(1961年)2月8日	61～ 62歳	至誠女子高等学校校長

関 係 年 表	
昭和24年(1949年)10月22日～24日	「東高校第一回記念祭」
昭和24年(1949年)11月	学校五日制始まる
昭和25年(1950年)5月16日	「校長杯争奪総合体育大会」始まる
昭和25年(1950年)5月	女子の夏服制定
昭和25年(1950年)9月	女子の冬服制定
昭和26年(1951年)9月	校歌の制定
昭和28年(1953年)4月1日	学校五日制廃止
昭和28年(1953年)4月3日	本校、広島県福山誠之館高等学校と改称
昭和28年(1953年)6月23日	「広島県立高等学校学則」制定
昭和29年(1954年)	「新生徒会会則」施行
昭和30年(1955年)11月20日	誠之会館落成式挙行

生い立ちと学業、業績

戦前に教諭として5年間本校に勤務したことが、あるいはこの校長の戦後の学校経営のある骨格を決めたと考えるのはおそらく誤っていないだろう。

それは次の3つの出来事に集約される。

1つは「校名変更問題」である。

昭和24年(1949年)6月27日に第1号を発行した「福山東高新聞」は昭和28年3月1日26号をもって、「福山誠之館新聞」に名前を変えるが、その間「声」欄にのる生徒の意見の見出しには「旧殻から脱皮せよ」「昔の遺物を取り去れ」「旧誠之館の残渣」などの文字が見える。

が「誠之館」に対する思いは強かった。

昭和27年在校生の変更に賛成は89%であった。

ちょうど、総合制の手直しとして、職業課程の独立問題があり、他校でも校名変更問題が持ち上がっていた。

校名変更陳情書は県教委の認めるところとなり、「福山東」は「福山誠之館」と改称されたのである。

1つは新校歌の制定である。

新校歌の制定は新設福山東高校にとって大きな課題であった。

生徒からの要望も「声」欄に載る。

そこで校長は新校歌の作成を依頼する。

昭和7年の時と同じ人選であった。(ただ、当時の第2校歌の作曲者藤井清水氏は亡くなられていたので、平井康三郎氏に変わった)

この校歌は、以後福山誠之館高校と改名後も歌い継がれた。

この時代講演会がしばしば行われている。

そして講師は多く誠之館の卒業生であった。

丸山鶴吉、森戸辰男、井伏鱒二、福原麟太郎の諸氏の名前が見える。

この校長の教育方針を「東高新聞」などでうかがうと、当初「究学・遵法・礼節」という言葉が多くあった。

昭和27年の第3回卒業式では、「久しきにわたり先輩諸子の遺されし麗わしの校風に培われた『至誠』を以て一貫されるように切望する。」とあり、校名変更問題では、学校新聞の質問に答えて「時代を良く認識し遠い将来を洞察するの明がなければならんと痛感せしめられる。中庸に説かれてある誠への精神は万人堅持して行かねばならぬ『教』であり、私自身も終生この精神にそむかぬよう努めたいと念じている」と答えている。

卒業式あるいは記念祭の回数の数え方について、『誠之館百三十年史』は、昭和32年3月1日の卒業式(香川光磨校長)を第9回とし、それ以前は不明と書いているが、昭和28年度卒業アルバムには「第4回卒業記念」とあり、昭和29年度アルバムは「第6回卒業記念」と明記している。

この校長の考え方をあるいは反映したものであろうか。

戦後の教育変革にともなう誠之館教育の変貌はかつてないほどであった。
しかし、紆余曲折を経ながらも誠之館教育が絶えることなく続き得たことは、この寡黙な校長の
行動力を抜きにしては語り得まい。 松岡義晃(昭和28年卒)

出典1:「福山誠之館新聞(第66号)」、福山誠之館高校報道課発行、昭和36年3月1日

関連資料1:『誠之館百三十年史(下巻)』、55・97 頁、福山誠之館同窓会編刊、平成元年3月31日

関連資料2:『巴峽百年(上巻)広島県立三次高等学校』、319・329 頁、創立百周年記念誌編集委員会編、同窓会「巴峽百年」
刊行会刊、2001年8月15日

関連資料3:『巴峽百年(下巻)広島県立三次高等学校』、18頁、創立百周年記念誌編集委員会編、同窓会「巴峽百年」刊行
会刊、2002年3月31日

2004年11月1日更新●2005年4月6日更新:経歴・本文●2006年3月28日更新:本文●2006年5月23日更新:連絡先
(削除)●2006年6月2日更新:タイトル●2007年7月20日更新:経歴●2007年10月16日更新:経歴・出典●2008年2月
4日更新:本文●2008年3月6日更新:関連資料●